

栄仁会

ワークネット きょうと

ジョブコーチ 太田智之さん



障害ではなく、一人ひとりを見ることから

私は精神障害の方の就労移行支援事業所で、就職から就労後までのサポートをしています。

精神障害といえば、対人緊張が強いイメージがあると思います。ですが、一人作業や一人部屋などで、人と関わりのない作業が良いかといえば、そっちの方がストレスになる方もいます。いろいろな方がいるんですよね。だから、うつとか統合失調症とか、障害の名前にとらわ

れずに、その人がどんな人なのか、その人自身をよく知ろうとすることが大切です。

表情や服装など、ちょっとした変化で、精神状態をキャッチします。企業さんにそれをフィードバックしていくうちに、企業さんのほうでも「最近彼女、表情が良くないです」とか、「いや、仕事はできてるし、大丈夫です」とか、分かるようになっていくんですよ。

働くことで、本来の自分を取り戻す

就職した人たちは、みんなすごく話され

るようになるんです。あと、すごく笑顔が

増えます。表情がぜんぜん違いますね。でも、就職で「変わった」わけじゃなくて、本来の自分に戻った、という方が、正確なのかもしれません。みんな、未来について話しはじめるんです。以前、就職につながった利用者さんから、お手紙をもらったことがあり

ます。「止まっていた時計の針が動き出しました、ありがとう」って。病気になった日から、人生が止まっていたんだろうなと思いました。仕事を得たことで、見通しがついて、人生が動き出した。それをこう表現してくれただんだと思います。

実習＝精神分野の専門家と接する機会

今、メンタルヘルスの問題はどこの職場にもあります。私たちは実習先を探す時、逆に企業さんから相談を受けることも多いんです。「うちの職場にもうつで休職の人がいて……」って。どう対処したらいいかわからない時に、私たちのような専門職と話す機会があるだけで、精神障害の方への理解が変わっていきます。実習を介して、みなさんに精神障害について分かってもらっただけで、私たちは成果だと思っています。

実習を通して雇用してくださった企業さん

から、「他にいい人いたら、紹介してな」といわれることがあります。そういう時はうれしいですね。

精神障害の方を雇用することは、メンタルヘルス対策に取り組むきっかけになるのではと考えてます。これは、企業さんにとっても利益になるはずですよ。

「精神障害ってどんな人？」って少しでも興味があるなら、ぜひ、すぐにも実習を受け入れてみていただきたいです。

ワークネットきょうと (就労移行支援事業所)

現在、10代から30代までの14名の精神障害の方が利用。就労のための基礎訓練から、企業へ実習体験を行う。実習体験では、実際の企業の中で、各利用者が抱える課題がみえ、職務上、生活上の問題への具体的な対処方法を体得することになる。それが就労継続のヒントに繋がるため、実習は特に重視している。実習後はそのまま就職する人もいれば、ハローワーク等と連携をして就職先を探す。



連絡先

栄仁会 ワークネットきょうと

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄新開11-23
TEL(0774)38-0111
FAX(0774)38-0151
job@ejinkai.or.jp